

厚生労働省科学研究費補助金
医療技術実用化総合研究事業

バイオイメージング画像による抗体医薬と低分子化
合物分子標的薬剤の ex vivo 評価システムの開発：
末梢血 CTC, CEC, CEP および検査または手術新鮮検体
を用いて（H21-トランス-一般-012）

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 畠 清彦

平成 22 年 5 月

目次

I. 総括研究報告

総括

畠清彦

II. 分担研究報告

1. 骨転移症例における bisphosphonate または抗体医薬の評価

高橋俊二

2. 悪性リンパ腫をはじめとする臨床データの提供

照井康仁

3. 前立腺癌、腎臓癌における分子標的薬剤の評価

湯浅健

4. CTC, CEC, CEP を用いた固形がんにおけるバイオマーカー研究

松阪諭

5. 検体からの細胞精製、ADCC 測定、イメージング画像記録

三嶋雄二

6. 手術および病理標本を用いた分子生物学的、免疫学的標的分子の評価

石川雄一

7. 悪性リンパ腫、肺癌における ALK など分子標的の解析

竹内賢吾

III. 研究成果の刊行に関する一覧

IV. 研究成果の刊行物・別刷り

厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化研究事業）
総括研究報告書

バイオイメージング画像による抗体医薬と低分子化合物分子標的薬剤の *ex vivo* 評価システムの開発:末梢血 CTC,CEC,CEP および検査または手術新鮮検体を用いて

H21・トランス一般-012

研究代表者 畠清彦 財団法人癌研究会有明病院化学療法科 部長

研究要旨 *Ex vivo* による評価を行うための ADCC 評価系、CDC 評価系の確立と、EML-ALK に対する新規薬剤臨床試験導入のために病理学的に改善した免疫染色と FISH を開発した。癌幹細胞の培養系を確立し、臨床検体のバンキングを開始した。また多くのがんにおいて、標的分子の発現頻度の解析を中心とする分子疫学調査を開始した。

A. 研究目的

戦略的に、かつ効率的に新たな分子標的薬剤を開発するために、臨床検体を用いた評価は絶対に必要である。そこで、有望と考えられるいくつかの標的分子について、病理または Tissue array を用いた分子疫学調査を行う。適切な評価系として、抗体医薬については CDC, ADCC とともに評価系を確立する。適切な精製などの手法を用いた組織、細胞のバンキングを行う。

B. 研究方法

臨床検体を、生検検体、手術検体、血液検査検体から、精製して、細胞および組織バンキングまたはただちに培養を行う。一部は、そのままに培養して、癌幹細胞を培養していく。有望と考えられた標的分子については多くのがんにおいて、発現頻度を検討する分子疫学調査を行っている。ADCC, CDC および有効性を *ex vivo* で細胞を用いて、イメージングにより評価していく。

（倫理面への配慮）

施設内の IRB および研究調整委員会の届け出を行い、許可を受けて研究を行っている。

C. 研究結果

EML-ALK については改善した免疫染色を用いて、スクリーニングが改善され、3

月および9月から日本でも ALK キナーゼ阻害剤が開発されており、臨床試験の効率化が可能となるであろう。AXL については慢性骨髄性白血病の耐性機序、乳癌における TKI 耐性に関係していると考えられ、検討を開始した。癌幹細胞はほぼほとんどの癌から、培養がコンスタントに可能となってきた。癌幹細胞において発現している遺伝子の検討に向かう。末梢循環血中腫瘍細胞に関しては、定期的に採取し、標的遺伝子の解析を行っている。DLK については肝臓癌を主として、発現がわかり、抗体医薬として開発が開始された。

D. 考察

多くの標的が見いだされているが、以前に比較すると、狭い領域であるか、耐性機序に関する分子であるので、効率的に評価する必要がある。また臨床検体においては、寿命の短いまたは不安定なリン酸化などを受けた活性型の分子の評価も必要であり、新鮮であること、少量で精製されていることが必要である。末梢循環血中腫瘍細胞や内皮細胞の解析、保存と、保存材料からの遺伝子解析を行い、大腸癌では KRAS 変異解析が可能となった。肝臓癌における DLK の発現を発表した。今後 DLK 陽性肝臓癌に対する抗体医薬療法の臨床試験につながる。現在、大塚製薬、中外製薬との共同研究も開始した。今後さらに共同研究企業を増加さえる、または標的分子の解析を増加させる必要がある。

E. 結論

ADCC, CDC などの抗体医薬の *ex vivo* 評価系が確立し、AXL や EGFR 系の評価を開始した。また ALK 阻害剤については、3 月、9 月からと 2 社からの臨床試験が開始されることになり、標的分子の評価法が具体的に使用されて、成果につながる。今後も標的分子の種類を増加させ、共同研究する企業を増加させる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Phase I study of inotuzumab ozogamicin (CMC-544) in Japanese patients with follicular lymphoma pretreated with rituximab-based therapy. Ogura M, Tobinai K, Hatake K, Uchida T, Kasai M, Oyama T, Suzuki T, Kobayashi Y, Watanabe T, Azuma T, Mori M, Terui Y, Yokoyama M, Mishima Y, Takahashi S, Ono C, Ohata J. *Cancer Sci.* 2010 Apr 23. [Epub ahead of print]
- Yanai H, Nakamura K, Hijioka S, Kamei A, Ikari T, Ishikawa Y, Shinozaki E, Mizunuma N, Hatake K, Miyajima A. Dlk-1, a cell surface antigen on fetal hepatic stem/progenitor cells, is expressed in hepatocellular, colon, pancreas and breast carcinomas at a high frequency. *J Biochem.* 2010 Mar 30. [Epub ahead of print]
- Circulating tumor cells as a surrogate marker for determining response to chemotherapy in patients with advanced gastric cancer. Matsusaka S, Chìn K, Ogura M, Suenaga M, Shinozaki E, Mishima Y, Terui Y, Mizunuma N, Hatake K. *Cancer Sci.* 2010 Jan 12. [Epub ahead of print]
- Galectin-9 exhibits anti-myeloma activity through JNK and p38 MAP kinase pathways. Kobayashi T, Kuroda J, Ashihara E, Oomizu S, Terui Y, Taniyama A, Adachi S, Takagi T, Yamamoto M, Sasaki N, Horiike S, Hatake K, Yamauchi A, Hirashima M, Taniwaki M. *Leukemia.* 2010 Apr;24(4):843-50. Epub 2010 Mar 4.
- Complete resection after imatinib treatment of a gastrointestinal stromal tumor of the ileum with peritoneal metastases: report of a case. Akiyoshi T, Oya M, Fujimoto Y, Kuroyanagi H, Ueno M, Yamaguchi T, Takahashi S, Hatake K, Katori M, Yamamoto N, Muto T. *Surg Today.* 2010 Mar;40(3):272-6. Epub 2010 Feb 24.
- Relationship between bone mineral density and androgen-deprivation therapy in Japanese prostate cancer patients. Yuasa T, Maita S, Tsuchiya N, Ma Z, Narita S, Horikawa Y, Yamamoto S, Yonese J, Fukui I, Takahashi S, Hatake K, Habuchi T. *Urology.* 2010 May;75(5):1131-7. Epub 2010 Feb 16.
- Bone metastasis and poor performance status are prognostic factors for survival of carcinoma of unknown primary site in patients treated with systematic chemotherapy. Kodaira M, Takahashi S, Yamada S, Ueda K, Mishima Y, Takeuchi K, Yamamoto N, Ishikawa Y, Yokoyama M, Saotome T, Terui Y, Hatake K. *Ann Oncol.* 21(6):1163-7. 2009
- Statin-independent prognosis of patients with diffuse large B-cell lymphoma receiving rituximab plus CHOP therapy. Ennishi D, Asai H,

癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京
リンパ節転移 1~3 個早期乳癌に対する術
後 AC→paclitaxel 療法の妥協性について
の検討 徳留なほみ・伊藤良則・高橋俊二・
杉原勉・小坂泰二郎・細永真理・服部正也・
小林心・三橋健次郎・小笠原壽恵・岩崎玲
子・堀井理絵・秋山太・畠清彦 第 17
回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4

東京

M1 乳癌における局所制御に関する検討
杉原勉・伊藤良則・高橋俊二・徳
留なほみ・服部正也・細永真理・小林心・
三橋健次郎・小口正彦・山下孝・岩瀬拓士・
松浦正明・畠清彦 第 17 回日本乳
癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

Triple Negative 乳癌転移症例における
3rd line 以降の治療の検討 細永真理・伊藤
良則・三橋健次郎・杉原勉・服部正也・徳
留なほみ・高橋俊二・岩瀬拓士・畠清彦
第 17 回日本乳癌学会学術総会
2009/7/3-7/4 東京

第 68 回日本癌学会学術総会
Yoshinori Ito, Yoshio
Miki, Futoshi Akiyama, Masaaki
Matsuura, Koichi Nagasaki, Takuji
Iwase, Kiyohiko Hatake, Individualized
primary chemotherapy by genetic
diagnosis for breast cancer
2009/10/2 東京

第 68 回日本癌学会学術総会 伊藤良
則・三木義男・秋山太・松浦正明・長崎光
一・岩瀬拓士・畠清彦 遺伝子診断によ
る個別化乳癌術前化学療法
2009/10/1-10/3 横浜

第 68 回日本癌学会学術総会 米田真
也・湯浅健・土谷順彦・馬智勇・鶴田大・
齋藤満・熊澤光明・成田伸太郎・堀川洋平・
畠清彦 腎細胞癌骨転移に対するスニチニ
ブの効果 2009/10/1-10/3 横浜

第 68 回日本癌学会学術総会 三嶋雄
二・照井康仁・松阪諭・國吉良子・三嶋裕
子・高木浩一・畠清彦 EGFR 標的療法
の効果予測のための生細胞イメージング
2009/10/1-10/3 横浜

日本血液学会 Takaaki Chou, Shinsuke
Ikeda, Shinichiro Okamoto, Hirokazu
Nagai, Kiyohiko Hatake, Hirokazu
Murakami, Toshiyuki Takagi, Kazuyuki
Shimizu, Massaki Takatoku, Tomomitsu
Hotta Phase I / II Study of
Lenalidomide ± Dex in Japanese
Patients with Rel/Ref Multiple Myeloma
2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Tsutomu
Kobayashi, Junya Kuroda, Eishi Ashihara
Yasuhito, Terui Akiko
Taniyama, Tomohisa Takagi, Satoko
Adachi, Mio Yamamoto, Kiyohiko
Hatake, Souichi Oomizu, Akira
Yamauchi, Mitsuomi
Hirashima, Masafumi Taniwaki
Galectin-9 exhibits
anti-myeloma activity through JNK and
p38 MAP kinase pathways
2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Mari
Hosonaga, Masahiro Yokoyama, Kengo
Takeuchi, Eriko Nara, Kenji
Nakano, Hiroaki Asai, Makoto
Kodaira, Kyoko Ueda, Shuhei
Yamada, Atsushi Katsube, Noriko
Nishimura, Yuko Mishima, Sakura
Sakajiri, Takashi Saotome, Shunji
Takahashi, Yasuhito Terui, Kiyohiko
Hatake A clinicopathological
retrospective study of 12 patients with
primary DLBCL of breast 2009/10/23-25
京都

Maeda Y, Shinagawa K, Ikeda K, Yokoyama M, Terui Y, Takeuchi K, Yoshino T, Matsuo K, Hatake K, Tanimoto M. Ann Oncol. 2010 Jun;21(6):1217-21.

- Functional in vivo optical imaging of tumor angiogenesis, growth, and metastasis prevented by administration of anti-human VEGF antibody in xenograft model of human fibrosarcoma HT1080 cells. Hanyu A, Kojima K, Hatake K, Nomura K, Murayama H, Ishikawa Y, Miyata S, Ushijima M, Matsuura M, Ogata E, Miyazawa K, Imamura T. Cancer Sci. 2009 Nov;100(11):2085-92. Epub 2009 Aug 3.
- Management of venous thromboembolism in colorectal cancer patients treated with bevacizumab. Suenaga M, Mizunuma N, Kobayashi K, Shinozaki E, Matsusaka S, Chin K, Kuboki Y, Ichimura T, Ozaka M, Ogura M, Fujiwara Y, Matsueda K, Konishi F, Hatake K. Med Oncol. 2009 Aug 21. [Epub ahead of print]
- An imaging-based rapid evaluation method for complement-dependent cytotoxicity discriminated clinical response to rituximab-containing chemotherapy. Mishima Y, Sugimura N, Matsumoto-Mishima Y, Terui Y, Takeuchi K, Asai S, Ennishi D, Asai H, Yokoyama M, Kojima K, Hatake K. Clin Cancer Res. 2009 May 15;15(10):3624-32. Epub 2009 May 5.
- Identification of CD20 C-terminal deletion mutations associated with loss of CD20 expression in non-Hodgkin's lymphoma. Terui Y, Mishima Y, Sugimura N, Kojima K, Sakurai T, Mishima Y, Kuniyoshi R, Taniyama A, Yokoyama M, Sakajiri

S, Takeuchi K, Watanabe C, Takahashi S, Ito Y, Hatake K. Clin Cancer Res. 2009 Apr 1;15(7):2523-30. Epub 2009 Mar 10.

2. 学会発表

進行期唾液腺癌 21 症例に対する Carboplatin+Paclitaxel 療法の後方視的解析 朝井洋晶・五月女隆・公平誠・山田修平・上田響子・明星智洋・三嶋裕子・横山雅大・別府武・米川博之・三谷浩樹・照井康仁・高橋俊二・川端一嘉・畠清彦

日本頭頸部学会学術集会 2009/6/10-6/13
北海道

転移再発乳癌患者における長期予後解析
小林心・伊藤良則・杉原勉・服部正也・徳留なほみ・高橋俊二・岩瀬拓士・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会
2009/7/3-7/4 東京

乳癌骨転移におけるゾレドロン酸の効果と副作用 高橋俊二・三浦弘善・徳留なほみ・伊藤良則・岩瀬拓士・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4
東京

HBs 抗原陰性乳癌患者における B 型肝炎再活性リスクの検討 服部正也・伊藤良則・杉原勉・徳留なほみ・高橋俊二・岩瀬拓士・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

術前化学療法症例における Triple negative 乳癌の予後解析 三橋健次郎・伊藤良則・宮城由美・杉原勉・服部正也・徳留なほみ・高橋俊二・堀井理絵・秋山太・岩瀬拓士・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

術後長期ホルモン治療患者における有害事象の検討 山崎真澄・高橋俊二・蒔田益次郎・多田敬一郎・西村誠一郎・飯島耕太郎・森園英智・宮城由美・伊藤良則・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

術後長期ホルモン治療患者における有害事象の検討 山崎真澄・高橋俊二・蒔田益次郎・多田敬一郎・西村誠一郎・飯島耕太郎・森園英智・宮城由美・伊藤良則・畠清彦

第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京
リンパ節転移 1~3 個早期乳癌に対する術後 AC→paclitaxel 療法の妥協性についての検討 徳留なほみ・伊藤良則・高橋俊二・杉原勉・小坂泰二郎・細永真理・服部正也・小林心・三橋健次郎・小笠原壽恵・岩崎玲子・堀井理絵・秋山太・畠清彦 第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4

東京

M1 乳癌における局所制御に関する検討 杉原勉・伊藤良則・高橋俊二・徳留なほみ・服部正也・細永真理・小林心・三橋健次郎・小口正彦・山下孝・岩瀬拓士・松浦正明・畠清彦 第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

Triple Negative 乳癌転移症例における 3rd line 以降の治療の検討 細永真理・伊藤良則・三橋健次郎・杉原勉・服部正也・徳留なほみ・高橋俊二・岩瀬拓士・畠清彦 第 17 回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

第 68 回日本癌学会学術総会 Yoshinori Ito, Yoshio Miki, Futoshi Akiyama, Masaaki Matsuura, Koichi Nagasaki, Takuji Iwase, Kiyohiko Hatake, Individualized primary chemotherapy by genetic diagnosis for breast cancer 2009/10/2 東京

第 68 回日本癌学会学術総会 伊藤良則・三木義男・秋山太・松浦正明・長崎光一・岩瀬拓士・畠清彦 遺伝子診断による個別化乳癌術前化学療法 2009/10/1-10/3 横浜

第 68 回日本癌学会学術総会 米田真也・湯浅健・土谷順彦・馬智勇・鶴田大・齋藤満・熊澤光明・成田伸太郎・堀川洋平・畠清彦 腎細胞癌骨転移に対するスニチニブの効果 2009/10/1-10/3 横浜

第 68 回日本癌学会学術総会 三嶋雄二・照井康仁・松阪諭・國吉良子・三嶋裕子・高木浩一・畠清彦 EGFR 標的療法の効果予測のための生細胞イメージング

2009/10/1-10/3 横浜

日本血液学会 Takaaki Chou, Shinsuke Ikeda, Shinichiro Okamoto, Hirokazu Nagai, Kiyohiko Hatake, Hirokazu Murakami, Toshiyuki Takagi, Kazuyuki Shimizu, Massaki Takatoku, Tomomitsu Hotta Phase I / II Study of Lenalidomide ± Dex in Japanese Patients with Rel/Ref Multiple Myeloma 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Tsutomu Kobayashi, Junya Kuroda, Eishi Ashihara Yasuhito, Terui Akiko Taniyama, Tomohisa Takagi, Satoko Adachi, Mio Yamamoto, Kiyohiko Hatake, Souichi Oomizu, Akira Yamauchi, Mitsuomi Hirashima, Masafumi Taniwaki Galectin-9 exhibits anti-myeloma activity through JNK and p38 MAP kinase pathways 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Mari Hosonaga, Masahiro Yokoyama, Kengo Takeuchi, Eriko Nara, Kenji Nakano, Hiroaki Asai, Makoto Kodaira, Kyoko Ueda, Shuhei Yamada, Atsushi Katsube, Noriko Nishimura, Yuko Mishima, Sakura Sakajiri, Takashi Saotome, Shunji Takahashi, Yasuhito Terui, Kiyohiko Hatake A clinicopathological retrospective study of 12 patients with primary DLBCL of breast 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Yasutoshi Kuboki, Kenji
 Nakano, Atsushi Katsube, Hiroaki
 Gotou, Hiroaki Asai, Makoto
 Koudaira, Kyouko Ueda, Shuhei
 Yamada, Noriko Nishimura, Yuko
 Mishima, Sakura Sakagiri, Takashi
 Saotome, Masahiro Yokoyama, Kengo
 Takeuchi, Shunji Takahashi, Yasuhito
 Terui, Kiyohiko Hatake Primary
 Gastrointestinal DLBCL is a better
 subgroup in DLBCL 2009/10/23-25

京都

日本血液学会 Hiroaki Asai, Masahiro
 Yokoyama, Masahiko Oguchi, Kengo
 Takeuchi, Kenji Nakano, Atsushi
 Katsube, Makoto Kodaira, Kyoko
 Ueda, Shuhei Yamada, Yuko
 Mishima, Sakura Sakagiri, Takashi
 Saotome, Yasuhito Terui, Sunji
 Takahashi, Kiyohiko Hatake
 Retrospective analysis in 13
 patients with localized nasal NK/T cell
 lymphoma treated with RT-DeVIC
 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Kyoko Ueda, Makoto
 Kodaira, Masahiro Yokoyama, Shuhei
 Yamada, Hiroaki Asai, Kenji
 Nakano, Atsushi Katsube, Yuko
 Mishima, Sakura Sakagiri, Takashi
 Saotome, Yasuhito Terui, Shunji
 Takahashi, Kengo Takeuchi, Kiyohiko
 Hatake A retrospective analysis of 100
 patients with MALT lymphoma
 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Hiroaki Goto, Masahiro
 Yokoyama, Kenji Nakano, Hiroaki
 Asai, Terukazu Enami, Makoto
 Kodaira, Atsushi Katsube, Kyoko
 Ueda, Syuhei Yamada, Noriko

Nishimura, Yuko Mishima, Sakura
 Sakagiri, Takahashi Sotome, Yasuhito
 Terui, Syunji Takahashi, Kiyohiko Hatake
 Efficacy and safety of
 combination chemotherapy with oral
 fludarabine in relapsed indolent B-NHL
 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Atushi Kasube, Kenji
 Nakano, Hiroaki Asai, Mari
 Hosonaga, Yasutoshi Kuboki, Hiroaki
 Goto, Terukazu Enami, Makoto
 Kodaira, Kyoko Ueda, Syuhei
 Yamada, Noriko Nishimura, Sakura
 Sakagiri, Yuko Mishima, Kengo
 Takeuchi, Masahiro Yokoyama, Takashi
 Saotome, Yasuhito Terui, Syunji
 Takahashi, Kiyohiko Hatake
 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Atushi Kasube, Kenji
 Nakano, Hiroaki Asai, Mari
 Hosonaga, Yasutoshi Kuboki, Hiroaki
 Goto, Terukazu Enami, Makoto
 Kodaira, Kyoko Ueda, Syuhei
 Yamada, Noriko Nishimura, Sakura
 Sakagiri, Yuko Mishima, Kengo
 Takeuchi, Masahiro Yokoyama, Takashi
 Saotome, Yasuhito Terui, Syunji
 Takahashi, Kiyohiko Hatake

Extranodal sites over two is a
 poor prognostic factor in mantle cell
 lymphoma 2009/10/23-25 京都

日本血液学会 Sayuri
 Nishiyama, Makoto Kodaira, Eriko
 Nara, Kenji Nakao, Yuko
 Mishima, Masahiro Yokoyama, Kengo
 Takeuchi, Shunji Takahashi, Yasuhito
 Terui, Kiyohiko Hatake Addition of
 anthracycline progression free survival of
 patients with Follicular lymphoma

2009/10/23-25 京都
日本血液学会 Eriko Nara,Makoto
Kodaira,Kenji Nakano,Yuuko
Mishima,Kengo Takeuchi,Masahiro
Yokoyama,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kiyohiko
Hatake Maintenance Rituximab after
R-CVP prolongs PFS in Patients with
untreated Follicular Lymphoma

2009/10/23-25 京都
日本血液学会 Makoto
Kodaira,Masahiro Yokoyama,Kenji
Nakano,Eriko Nara,Hiroaki Asai,Kyoko
Ueda,Shuhei Yamada,Yuko
Mishima,Kengo Tkeuchi,Takashi
Saotome,Shunji Takahashi,Yasuhito
Terui,Kiyohiko Hatake Serum CRP
level is a predictive indicator for relapse
for Follicular Lymphoma in rituximab era

2009/10/23-25 京都
日本血液学会 Masahiro
Yokotama,Yasuhito Terui,Kengo
Takeuchi,Kenji Nakano,Mari
Hosonaga,Hiroaki Goto,Atsushi
Katsube,Hiroaki Asai,Yasutoshi
Kuboki,Makoto Kodaira,Kyoko
Ueda,Shuhei Yamada,Noriko
Nishimura,Yuko Mishima,Sakura
Sakagiri,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake

Dose-dense weekly rituximab
and standard CHOP therrapy in 134
patient with newly dignosed DLBCL

2009/10/23-25 京都
日本血液学会 Shuhei
Yamada,Masahiro Yokoyama,Eriko
Nara,Kenji Nakano,Atushi
Kathube,Hiroaki Asai,Makoto
Koudaira,Kyoko Ueda,Tomoko

Nishimura,Yuko Mishima,Sakura
Sakajiri,Kengo Takeuchi,Takashi
Saotome,Yasuhito Terui,Shunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake

FDG-PET is useful for
assessment of reponse to R-CHOP
therapy in patients with DLBCL

2009/10/23-26 京都
日本血液学会 Kenji Nakano,Makoto
Kodaira,Eriko Nara,Hiroaki Asai,Hiroki
Goto,Atsushi Katsube,Terukazu
Enami,Kyoko Ueda,Shuhei
Yamada,Noriko Nishimura,Yuko
Mishima,Sakura Sakajiri,Mashiro
Yokoyama,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kego
Takeuchi,Kiyohiko Hatake High

serum CRP is a poor prognostic factor of
transformation with relapsed follicular
lymphoma 2009/10/23-27 京都

日本血液学会 Noriko
Nishimura,Masahiro Yokoyama,Kenji
Nakano,Makoto Kodaira,Eriko
Nara,Hiroaki Asai,Hiroaki Goto,Atsushi
Katube,Terukazu Enami,Kyoko
Ueda,Syuhei Yamada,Yuko
Mishima,Sakura Sakajiri,Takashi
Saotome,Syunji Takahashi,Yasuhito
Terui,Kengo Takeuchi,Kiyohiko Hatake

the therapeutic outcomes of
aggressive DLBCL aged less than 65
years old treated with R-CHOP regimen

2009/10/23-28 京都
トラスツズマブ初回投与時に間質性肺炎を
きたした1例. 深田一平, 伊藤良則, 高
橋俊二, 徳留なほみ, 小林心, 福田貴代, 岩
瀬拓士, 畠清彦 第6回日本乳癌学会関東
地方会 2009/12/5 大宮
Lapatinib+capecitabine 内服中に重篤な下

痢を呈し入院加療を要した1例. 千原陽子, 伊藤良則, 福田貴代, 小林心, 徳留なほみ, 岩瀬拓士, 畠清彦 第6回日本乳癌学会関東地方会 2009/12/5 大宮

Response to neoadjuvant chemotherapy and prognosis of triple negative breast cancer. Tokudome N, Ito Y, Takahashi S, Sugihara T, Hosonaga M, Iwasaki R, Hattori M, Fukuda T, Mitsuhashi K, Kobayashi K, Taira S, Saito Y, Fukada I, Ueki N, Tsutsumi C, Miyagi Y, Iwase T, Osako T, Horii R, Akiyama F, Hatake K

32nd San Antonio Breast Cancer Symposium 2009.12.9-13 テキサス州サンアントニオ

大腸癌に対する化学療法、癌研有明病院でのレトロスペクティブ的解析 水沼信之・篠崎英司・末永光邦・松阪諭・久保木恭利・野崎明・高木浩一・渡邊利康・河添悦昌・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

大腸癌患者における Bevacizumab の投与規定因子とリスク 渡邊利康・末永光邦・久保木恭利・市村崇・河添悦昌・野崎明・大場大・高木浩一・尾阪将人・小倉真理子・篠崎英司・松阪諭・陳勁松・水沼信之・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

悪性リンパ腫に対する high MEC 前処置自家末梢血幹細胞移植は有効に治療選択肢の一つである 勝部敦史・仲野兼司・朝井洋晶・公平誠・上田響子・山田修平・坂尻さくら・三嶋裕子・竹内賢吾・横山雅大・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

血清可溶性 interleukin-2 受容体上昇は濾胞性リンパ腫の予後不良因子である 公平誠・竹内賢吾・奈良江梨子・

仲野兼司・上田響子・山田修平・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・高橋俊二・照井康仁・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

Hodgkin lymphoma 治療戦略: ABVD 治療終了後評価と予後との関係 三嶋裕子・横山雅大・上田響子・山田修平・公平誠・朝井洋晶・仲野兼司・勝部敦史・坂尻さくら・五月女隆・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

Imatinib 投与後、根治療可能な PR 症例ではいつ手術を行うべきか? imatinib 投与 39 例の後方視的毛解析より 尾阪将人・久保木恭利・市村崇・河添悦昌・渡邊利康・高木浩一・大場大・小倉真理子・篠崎英司・末永光邦・松阪諭・陳勁松・水沼信之・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

成人発生高感受性軟部肉腫に対する導入化学療法 CADO/CVP の有効性 奈良江梨子・公平誠・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

Bisphosphonate による顎骨壊死の発症・悪化予防には歯科ケアが重要である 堤千寿子・高橋俊二・伊藤良則・徳留なほみ・平良眞一郎・小林心・福田貴代・朝井洋晶・大戸雅史・伊藤真由子・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

乳癌骨転移に対するゾレドロン酸の長期投与の安全性 平良眞一郎・高橋俊二・伊藤良則・徳留なほみ・堤千寿子・小林心・福田貴代・朝井洋晶・大戸雅史・伊藤真由子・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

癌研有明病院における進行期腎細胞癌に対

する分子標的治療の初期経験 湯 浅
健・仲野兼司・公平誠・浦上慎司・山本信
也・米瀬淳二・福井巖・畠清彦・高橋俊二
第 8 回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19

東京

食道癌の根治的化学療法における効果測因
子としての血清 p53 抗体の意義 大戸雅
史・篠崎英司・久保木恭利・市村崇・渡邊
利康・高木浩一・尾阪将人・小倉真理子・
末永光邦・松阪諭・陳勁松・水沼信之・畠
清彦・山本智理子 第 8 回日本臨床

腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

胃がん原発巣の化学療法効果判定における
CT と内視鏡の比較 陳勁松・吉本和

仁・水沼信之・松阪諭・篠崎英司・末永光
邦・小倉真理子・尾阪将人・久保木恭利・
市村崇・高木浩一・野崎明・渡邊利泰・畠
清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会

2010/3/18-3/19 東京

進行再発胃癌患者における CDDP の外来投
与の規制因子は消化器毒性である 久保木
恭利・篠崎英司・市村崇・尾阪将人・大場
大・小倉真理子・末永光邦・松阪諭・陳勁
松・水沼信之・畠清彦 第 8 回日本臨床

腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

S-1 耐性胃癌に対するパクリタキセル療法
の有効性 高木浩一・陳勁松・大場

大・久保木恭利・大戸雅史・市村崇・河添
悦昌・渡邊利泰・尾阪将人・小倉真理子・
末永光邦・篠崎英司・松阪諭・水沼信之・
畠清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会

2010/3/18-3/19 東京

進行胃癌 2 次化学療法における irinotecan
治療の意義 大場大・陳勁松・久保木

恭利・市村崇・河添悦昌・渡邊利泰・服部
正也・高木浩一・尾阪将人・小倉真理子・
篠崎英司・末永光邦・松阪諭・水沼信之・
畠清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会

2010/3/18-3/19 東京

Oxaliplatin 継続は Stage IIIb,IV 結腸直腸
癌に対する術後補助 FOLFOX 療法の効果
予測因子である 末永光邦・水沼信之・篠
崎英司・松阪諭・陳勁松・久保木恭利・渡
邊利泰・藤本佳也・上野雅資・黒柳洋弥・

大矢雅敏・山本智理子・畠清彦 第 8 回
日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19

東京

進行再発大腸癌に対する FOLFOX4 療法の
治療成績 小倉真理子・松阪諭・久

保木恭利・市村崇・渡邊利泰・高木浩一・
野崎明・尾阪将人・篠崎英司・末永光邦・
第 8 回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19

東京

高齢者では Cetuximab のさ瘡洋皮疹が軽
くなる可能性がある 渡邊利泰・篠崎

英司・朝井洋昌・久保木恭利・大戸雅史・
河添悦昌・野崎明・高木浩一・尾阪将人・
小倉真理子・末永光邦・松阪諭・陳勁松・
水沼信之・畠清彦 第 8 回日本臨床

腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

化学療法の副作用としての口内炎発症率・
重症度の網羅的解析 西村倫子・細永

真理・仲野兼司・西村誠・朝井洋晶・上田
響子・公平誠・山田修平・服部正也・三嶋
裕子・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高
橋俊二・畠清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会

2010/3/18-3/19 東京

Bevacizumab に対するバイオマーカーは
CEP および CXCR4+CEC である 松 阪

諭・三嶋雄二・水沼信之・末永光邦・篠崎
英司・陳勁松・小倉真理子・尾阪将人・高
木浩一・渡邊利康・野崎明・大場大・河添
悦昌・照井康仁・畠清彦 第 8 回日本臨床

腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

cetuximab の治療を受けた大腸癌患者にお
ける血清 Mg の早期低下は病勢コントロー
ルと相関する可能性 篠崎英司・水沼

信之・朝井洋晶・渡邊利康・野崎明・松阪

論・末永光邦・陳勁松・小倉真理子・尾阪
将人・久保木恭利・高木浩一・市村崇・畠
清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会
2010/3/18-3/19 東京

cetuximab 併用療法での奏効は治療成功
期間を延長する～再発・転移大腸癌 72 症例
の後方視的解析より～ 朝井洋晶・篠崎
英司・水沼信之・渡邊利康・野崎明・久保
木恭利・市村崇・高木浩一・尾阪将人・小
倉真理子・末永光邦・松阪諭・陳勁松・畠
清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会
2010/3/18-3/19 東京

FOLFOX 療法による脾腫が血小板減少お
よび肝酸素に与える影響 河添悦昌・篠崎
英司・細永真理・久保木恭利・市村崇・渡
邊利康・大場大・高木浩一・尾阪将人・小
倉真理子・末永光邦・松阪諭・陳勁松・水
沼信之・畠清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会
2010/3/18-3/19 東京

HBs 抗原陰性乳癌患者における B 型肝炎再
活性リスク 服部正也・伊藤良則・横
山雅大・井上和明・五月女隆・照井康仁・
水沼信之・高橋俊二・畠清彦 第 8 回
日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19
東京

肝内胆管癌に対する化学療法の治療成績
尾阪将人・行澤斉悟・石井浩
第 8 回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19
東京

T 細胞リンパ腫において初回治療の完遂は
長期予後を得るための必要条件である

仲野兼司・公平誠・遠矢嵩・朝井
洋晶・三嶋裕子・坂尻さくら・横山雅大・
五月女隆・照井康仁・高橋俊二・竹内賢吾・
畠清彦 第 8 回日本臨床腫瘍学会
2010/3/18-3/19 東京

ALCL においても PIT は予後因子として有
効である 遠矢嵩・仲野兼司・朝井
洋晶・公平誠・三嶋裕子・坂尻さくら・横
山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・
竹内賢吾・畠清彦 第 8 回日本臨床
腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
切除不能・再発難治性粘膜悪性黒色腫に対
する DAV 療法の試み 上田響子・五月
女隆・山田修平・西村倫子・奈良江梨子・
仲野兼司・朝井洋晶・公平誠・勝部敦史・
坂尻さくら・三嶋裕子・横山雅大・照井康
仁・高橋俊二・畠清彦 第 8 回日本臨床
腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を
含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化研究事業）
分担研究報告書

バイオイメージング画像による抗体医薬と低分子化合物分子標的薬剤の ex vivo 評価システムの開発:末梢血 CTC,CEC,CEP および検査または手術新鮮検体を用いて
H21・トランス-一般-012

研究分担者 高橋俊二 財団法人癌研究会有明病院化学療法科 担当部長

研究要旨 骨転移症例における bisphosphonate または抗体医薬の評価は、骨転移を来す細胞または骨転移を制御していると考えられる破骨細胞を標的とすることとなる。骨

A. 研究目的

骨転移または骨転移を規定する破骨細胞を主とする支持細胞、またはこれらの細胞における増殖因子やその受容体、下流シグナル伝達が標的である。

B. 研究方法

乳癌において骨転移例の臨床例における解析、治療法では、trastuzumab や Lapatinib 使用例における頻度や末梢循環血中腫瘍細胞数の検討を行った。

（倫理面への配慮）

施設内の IRB および研究調整委員会の届け出を行い、許可を受けて研究を行っている。

C. 研究結果

抗がん剤治療の種類に限らず、末梢循環血中腫瘍細胞は、奏効すると減少し、奏効しない場合には増加または不変であった。Bisphosphonate の効果は骨転移が主であるが、耐性例での解析を行う。胸水や心のう水から検体を採取した。Spheroid complex 培養を開始した。

D. 考察

CTC だけでなく、乳癌では骨転移を予測して、bisphosphonate 投与前後に骨髓検査で、Disseminated Tumor cell(DTC)を採取する必要があると考えられた。

E. 結論

心のう水、胸水、骨髓中からの腫瘍細胞、

CTC をバイオマーカーとして、抗がん剤治療の評価を行っていく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- Efficacy of S-1 in heavily pretreated patients with metastatic breast cancer:cross-resistance to capecitabine Yoshinori Ito, Yohei Osaki, Nahomi Tokudome, Tsutomu Sugihara, Shunji Takahashi, Takuji Iwase, Kiyohiko Hatake Breast Cancer Vol.16 126-131. 2009
- Common and discriminative clinicopathological features between breast cancers with pathological complete response or progressive disease in response to neoadjuvant chemotherapy Tomo Osako, Rie Horii, Masaaki Matsuura, Akiko Ogiya, Kaoru Domoto, Yumi Miyagi, Shunji Takahashi, Yoshinori Ito, Takuji Iwase, Futoshi Akiyama Cancer Research Clinical Oncology Vol.136 233-241 2009

2. 学会発表

化学療法の副作用としての口内炎発症率

・重症度の網羅的解析 西村倫子・細永真理・仲野兼司・西村誠・朝井洋晶・上田響子・公平誠・山田修平・服部正也・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

T細胞リンパ腫において初回治療の完遂は長期予後を得るための必要条件である

仲野兼司・公平誠・遠矢嵩・朝井洋晶・三嶋裕子・坂尻さくら・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・竹内賢吾・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

HBs抗原陰性乳癌患者におけるB型肝炎再活性リスク 服部正也・伊藤良則・横山雅大・井上和明・五月女隆・照井康仁・水沼信之・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京

乳癌骨転移におけるゾレドロン酸の効果と副作用 高橋俊二 第17回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

乳癌骨転移におけるゾレドロン酸の効果と副作用 高橋俊二 第17回日本乳癌学会学術総会 2009/7/3-7/4 東京

第27回日本骨代謝学会学術集会 高橋俊二 乳癌患者の骨病変

2009/7/25 大阪

▶ 第27回日本骨代謝学会学術集会 高橋俊二 アロマトーゼ阻害剤および抗アンドロゲン剤による骨代謝障害 2009/7/25 大阪

Response to neoadjuvant chemotherapy and prognosis of triple negative breast cancer. Tokudome N, Ito Y, Takahashi S, Sugihara T, Hosonaga M, Iwasaki R, Hattori M, Fukuda T, Mitsunashi K, Kobayashi K, Taira S, Saito Y, Fukada I, Ueki N, Tsutsumi C, Miyagi Y, Iwase T, Osako T, Horii R, Akiyama F, Hatake K

32nd San Antonio Breast Cancer Symposium 2009.12.9-13 テキサス州サンアントニオ

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化研究事業）
分担研究報告書

バイオイメージング画像による抗体医薬と低分子化合物分子標的薬剤の ex vivo 評価システムの開発:末梢血 CTC,CEC,CEP および検査または手術新鮮検体を用いて

H21・トランス一般-012

研究分担者 照井康仁 財団法人癌研究会有明病院血液腫瘍科 担当部長

研究要旨 悪性リンパ腫や固形癌、特に大腸癌や胃癌、乳癌をはじめとする臨床データの提供を行った。また同意書を取得して、実際に臨床検体を収集した。

A. 研究目的

患者から同意書を取得した上で、臨床例の抗がん剤治療に対する結果を含めたデータの収集と臨床検体の収集を行い、具体的な検体とする。できるだけ新鮮で、解析しやすいように、骨髄、リンパ節、末梢血、手術材料から収集する。

B. 研究方法

考えられる疾患の患者から同意書を取得した上で、末梢血、骨髄、リンパ節の検査時に検体を提供いただく。新鮮なうちに、精製分離または培養に入る。癌幹細胞 spheroid complex の培養も行う。

（倫理面への配慮）

施設内の IRB および研究調整委員会の届け出を行い、許可を受けて研究を行っている。

C. 研究結果

各がんの種類に応じて少なくとも 20 例以上、分子標的薬剤を使用した例からも検体を収集した。慢性骨髄性白血病や急性リンパ性白血病で Imatinib 耐性例からの検体、細胞株の樹立、骨髄腫では bortezomib 耐性例から骨髄を収集した。

D. 考察

すでにこれまで開発されている薬剤に対する耐性機序を克服、またはさらに狭い領域の標的分子を目標としており、できるだけ広く、血液疾患も含めて、固形腫瘍の腫瘍細胞も収集した。

E. 結論

ALK, AXL, DLK などの具体的な標的分子の発現を、耐性例において細胞を収集した。今後さらに多くの腫瘍細胞を収集する。

子。今後さらに多くの腫瘍細胞を収集する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Mishima Y, Sugimura N, Matsumoto-Mishima Y, Terui Y, Takeuchi K, Asai S, Ennishi D, Asai H, Yokoyama M, Kojima K, Hatake K. An imaging-based rapid evaluation method for complement-dependent cytotoxicity discriminated clinical response to rituximab-containing chemotherapy. Clin Cancer Res. 2009 May 15;15(10):3624-32.
2. Terui Y, Mishima Y, Sugimura N, Kojima K, Sakurai T, Mishima Y, Kuniyoshi R, Taniyama A, Yokoyama M, Sakajiri S, Takeuchi K, Watanabe C, Takahashi S, Ito Y, Hatake K. Identification of CD20 C-terminal deletion mutations associated with loss of CD20 expression in non-Hodgkin's lymphoma. Clin Cancer Res. 2009 Apr 1;15(7):2523-30.
3. Circulating tumor cells as a surrogate marker for determining response to chemotherapy in patients with advanced gastric cancer.

Matsusaka S, Chin K, Ogura M, Suenaga M, Shinozaki E, Mishima Y, Terui Y, Mizunuma N, Hatake K. Cancer Sci. 2010 Jan 12. in press.

4. Bone metastasis and poor performance status are prognostic factors for survival of carcinoma of unknown primary site in patients treated with systematic chemotherapy. Kodaira M, Takahashi S, Yamada S, Ueda K, Mishima Y, Takeuchi K, Yamamoto N, Ishikawa Y, Yokoyama M, Saotome T, Terui Y, Hatake K. Ann Oncol. 2009 Dec 17. [Epub ahead of print]
5. Statin-independent prognosis of patients with diffuse large B-cell lymphoma receiving rituximab plus CHOP therapy. Ennishi D, Asai H, Maeda Y, Shinagawa K, Ikeda K, Yokoyama M, Terui Y, Takeuchi K, Yoshino T, Matsuo K, Hatake K, Tanimoto M. Ann Oncol. 2009 Nov 2. [Epub ahead of print]
6. An imaging-based rapid evaluation method for complement-dependent cytotoxicity discriminated clinical response to rituximab-containing chemotherapy. Mishima Y, Sugimura N, Matsumoto-Mishima Y, Terui Y, Takeuchi K, Asai S, Ennishi D, Asai H, Yokoyama M, Kojima K, Hatake K. Clin Cancer Res. 2009 May 15;15(10):3624-32. Epub 2009 May 5.

2. 学会発表

- 進行期唾液腺癌 21 症例に対する Carboplatin+Paclitaxel 療法の後方視的解析 朝井洋晶・五月女隆・公平誠・山田修平・上田響子・明星智洋・三嶋裕子・横山雅大・別府武・米川博之・三谷浩樹・照井康仁・高橋俊二・川端一嘉・畠清彦 日本頭頸部学会学術集会 2009/6/10-6/13 北海道

- 第 68 回日本癌学会学術総会 三嶋雄二・照井康仁・松阪諭・國吉良子・三嶋裕子・高木浩一・畠清彦 EGFR 標的療法の効果予測のための生細胞イメージング 2009/10/1-10/3 横浜
- 日本血液学会 Tsutomu Kobayashi,Junya Kuroda,Eishi Ashihara Yasuhito ,Terui Akiko Taniyama,Tomohisa Takagi,Satoko Adachi,Mio Yamamoto,Kiyohiko Hatake,Souichi Oomizu,Akira Yamauchi,Mitsuomi Hirashima,Masafumi Taniwaki Galectin-9 exhibits anti-myeloma activity through JNK and p38 MAP kinase pathways 2009/10/23-25 京都
- 日本血液学会 Mari Hosonaga,Masahiro Yokoyama,Kengo Takeuchi,Eriko Nara,Kenji Nakano,Hiroaki Asai,Makoto Kodaira,Kyoko Ueda,Shuhei Yamada,Atsushi Katsube,Noriko Nishimura,Yuko Mishima,Sakura Sakajiri,Takashi Saotome,Shunji Takahashi,Yasuhito Terui,Kiyohiko Hatake A clinicopathological retrospective study of 12 patients with primary DLBCL of breast 2009/10/23-25 京都
- 日本血液学会 Yasutoshi Kuboki,Kenji Nakano,Atsushi Katsube,Hiroaki Gotou,Hiroaki Asai,Makoto Koudaira,Kyouko Ueda,Shuhei Yamada,Noriko Nishimura,Yuko Mishima,Sakura Sakagiri,Takashi Saotome,Masahiro

- Yokoyama,Kengo Takeuchi,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kiyohiko
Hatake Primary
Gastrointestinal DLBCL is a better
subgroup in DLBCL 2009/10/23-25
京都
- 日本血液学会 Hiroaki
Asai,Masahiro Yokoyama,Masahiko
Oguchi,Kengo Takeuchi,Kenji
Nakano,Atsushi Katsube,Makoto
Kodaira,Kyoko Ueda,Shuhei
Yamada,Yuko Mishima,Sakura
Sakagiri,Takashi Saotome,Yasuhito
Terui,Sunji Takahashi,Kyohiko
Hatake Retrospective analysis
in 13 patients with localized nasal
NK/T-cell lymphoma treated with
RT-DeVIC 2009/10/23-25 京都
 - 日本血液学会 Kyoko
Ueda,Makoto Kodaira,Masahiro
Yokoyama,Shuhei Yamada,Hiroaki
Asai,Kenji Nakano,Atsushi
Katsube,Yuko Mishima,Sakura
Sakagiri,Takashi Saotome,Yasuhito
Terui,Shunji Takahashi,Kengo
Takeuchi,Kiyohiko Hatake A
retrospective analysis of 100 patients
with MALT lymphoma
2009/10/23-25 京都
 - 日本血液学会 Hiroaki
Goto,Masahiro Yokoyama,Kenji
Nakano,Hiroaki Asai,Terukazu
Enami,Makoto Kodaira,Atsushi
Katsube,Kyoko Ueda,Syuhei
Yamada,Noriko Nishimura,Yuko
Mishima,Sakura Sakagiri,Takahashi
Sotome,Yasuhito Terui,Syunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake
Efficacy and safety of
combination chemotherapy with oral
fludarabine in relapsed indolent
B-NHL 2009/10/23-25 京都
 - 日本血液学会 Atushi
Kasube,Kenji Nakano,Hiroaki
Asai,Mari Hosonaga,Yasutoshi
Kuboki,Hiroaki Goto,Terukazu
Enami,Makoto Kodaira,Kyoko
Ueda,Syuhei Yamada,Noriko
Nishimura,Sakura Sakagiri,Yuko
Mishima,Kengo Takeuchi,Masahiro
Yokoyama,Takashi
Saotome,Yasuhito Terui,Syunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake
2009/10/23-25 京都
 - 日本血液学会 Atushi
Kasube,Kenji Nakano,Hiroaki
Asai,Mari Hosonaga,Yasutoshi
Kuboki,Hiroaki Goto,Terukazu
Enami,Makoto Kodaira,Kyoko
Ueda,Syuhei Yamada,Noriko
Nishimura,Sakura Sakagiri,Yuko
Mishima,Kengo Takeuchi,Masahiro
Yokoyama,Takashi
Saotome,Yasuhito Terui,Syunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake
Extranodal sites over two is a
poor prognostic factor in mantle cell
lymphoma 2009/10/23-25 京都
 - 日本血液学会 Sayuri
Nishiyama,Makoto Kodaira,Eriko
Nara,Kenji Nakao,Yuko
Mishima,Masahiro Yokoyama,Kengo
Takeuchi,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kyohiko
Hatake Addition of
anthracycline progression free
survival of patients with Follicular
lymphoma 2009/10/23-25 京都

- 日本血液学会 Eriko
Nara,Makoto Kodaira,Kenji
Nakano,Yuuko Mishima,Kengo
Takeuchi,Masahiro
Yokoyama,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kiyohiko
Hatake Maintenance Rituximab
after R-CVP prolongs PFS in
Patients with untreated Follicular
Lymphoma 2009/10/23-25 京都
- 日本血液学会 Makoto
Kodaira,Masahiro Yokoyama,Kenji
Nakano,Eriko Nara,Hiroaki
Asai,Kyoko Ueda,Shuhei
Yamada,Yuko Mishima,Kengo
Takeuchi,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kiyohiko
Hatake Serum CRP level is a
predictive indicator for relapse for
Follicular Lymphoma in rituximab
era 2009/10/23-25 京都
- 日本血液学会 Masahiro
Yokoyama,Yasuhito Terui,Kengo
Takeuchi,Kenji Nakano,Mari
Hosonaga,Hiroaki Goto,Atsushi
Katsube,Hiroaki Asai,Yasutoshi
Kuboki,Makoto Kodaira,Kyoko
Ueda,Shuhei Yamada,Noriko
Nishimura,Yuko Mishima,Sakura
Sakagiri,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake
Dose-dense weekly rituximab
and standard CHOP therapy in 134
patient with newly diagnosed DLBCL
2009/10/23-25 京都
- 日本血液学会 Shuhei
Yamada,Masahiro Yokoyama,Eriko
Nara,Kenji Nakano,Atsushi
Katsube,Hiroaki Asai,Makoto
- Koudaira,Kyoko Ueda,Tomoko
Nishimura,Yuko Mishima,Sakura
Sakajiri,Kengo Takeuchi,Takashi
Saotome,Yasuhito Terui,Shunji
Takahashi,Kiyohiko Hatake
FDG-PET is useful for
assessment of response to R-CHOP
therapy in patients with DLBCL
2009/10/23-26 京都
- 日本血液学会 Kenji
Nakano,Makoto Kodaira,Eriko
Nara,Hiroaki Asai,Hiroki
Goto,Atsushi Katsube,Terukazu
Enami,Kyoko Ueda,Shuhei
Yamada,Noriko Nishimura,Yuko
Mishima,Sakura Sakajiri,Masahiro
Yokoyama,Takashi Saotome,Shunji
Takahashi,Yasuhito Terui,Kengo
Takeuchi,Kiyohiko Hatake High
serum CRP is a poor prognostic
factor of transformation with
relapsed follicular lymphoma
2009/10/23-27 京都
- 日本血液学会 Noriko
Nishimura,Masahiro
Yokoyama,Kenji Nakano,Makoto
Kodaira,Eriko Nara,Hiroaki
Asai,Hiroaki Goto,Atsushi
Katsube,Terukazu Enami,Kyoko
Ueda,Shuhei Yamada,Yuko
Mishima,Sakura Sakajiri,Takashi
Saotome,Shunji Takahashi,Yasuhito
Terui,Kengo Takeuchi,Kiyohiko
Hatake the therapeutic
outcomes of aggressive DLBCL aged
less than 65 years old treated with
R-CHOP regimen 2009/10/23-28
京都
- 悪性リンパ腫に対する high MEC 前

- 処置自家末梢血幹細胞移植は有効に治療選択肢の一つである 勝部敦史・仲野兼司・朝井洋晶・公平誠・上田響子・山田修平・坂尻さくら・三嶋裕子・竹内賢吾・横山雅大・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
- 血清可溶性 interleukin-2 受容体上昇は濾胞性リンパ腫の予後不良因子である 公平誠・竹内賢吾・奈良江梨子・仲野兼司・上田響子・山田修平・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・高橋俊二・照井康仁・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - Hodgkin lymphoma 治療戦略: ABVD 治療終了後評価と予後との関係 三嶋裕子・横山雅大・上田響子・山田修平・公平誠・朝井洋晶・仲野兼司・勝部敦史・坂尻さくら・五月女隆・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - Imatinib 投与後、根治療可能な PR 症例ではいつ手術を行うべきか? imatinib 投与 39 例の後方視的毛解析より 尾阪将人・久保木恭利・市村崇・河添悦晶・渡邊利康・高木浩一・大場大・小倉真理子・篠崎英司・末永光邦・松阪諭・陳勁松・水沼信之・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - 成人発生高感受性軟部肉腫に対する導入化学療法 CADO/CVP の有効性 奈良江梨子・公平誠・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - 化学療法の副作用としての口内炎発症率・重症度の網羅的解析 西村倫子・細永真理・仲野兼司・西村誠・朝井洋晶・上田響子・公平誠・山田修平・服部正也・三嶋裕子・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - Bevacizumab に対するバイオマーカーは CEP および CXCR4+CEC である 松阪諭・三嶋雄二・水沼信之・末永光邦・篠崎英司・陳勁松・小倉真理子・尾阪将人・高木浩一・渡邊利康・野崎明・大場大・河添悦晶・照井康仁・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - HBs 抗原陰性乳癌患者における B 型肝炎再活性リスク 服部正也・伊藤良則・横山雅大・井上和明・五月女隆・照井康仁・水沼信之・高橋俊二・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - T 細胞リンパ腫において初回治療の完遂は長期予後を得るための必要条件である 仲野兼司・公平誠・遠矢嵩・朝井洋晶・三嶋裕子・坂尻さくら・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・竹内賢吾・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - ALCL においても PIT は予後因子として有効である 遠矢嵩・仲野兼司・朝井洋晶・公平誠・三嶋裕子・坂尻さくら・横山雅大・五月女隆・照井康仁・高橋俊二・竹内賢吾・畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会 2010/3/18-3/19 東京
 - 切除不能・再発難治性粘膜悪性黒色腫に対する DAV 療法の試み 上田響子・五月女隆・山田修平・西村倫子・奈良江梨子・仲野兼司・朝井洋晶・公

平誠・勝部敦史・坂尻さくら・三嶋裕
子・横山雅大・照井康仁・高橋俊二・
畠清彦 第8回日本臨床腫瘍学会
2010/3/18-3/19 東京

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を
含む。）